

まな Viva!

「京都丹波 まな Viva!」は、学校と先生を応援する南丹教育局の学びのニュースです。

市町教育委員会との連携事業「授業実践講座」を開催しました!

今年度の講座は、教科学習での見方・考え方を働かせ、学びの質を高める学習活動の実現に向けて、公開授業に基づく授業研究会と先生方の具体的な取組の実践交流から、授業の在り方について協議し、各校からの参加者と学びを深めています。10月から11月にかけて、教科ごと(「小学校国語」「中学校外国語」「小中学校理科」)に第2回講座を開催しましたので、その内容を紹介します。

本講座の目的

学習指導要領に示される、教科学習での見方・考え方を働かせ、学びの質を高める学習活動の実現に向け、公開授業に基づく授業研究や先進的な取組の実践交流から学ぶ機会とし、管内の小学校・中学校・義務教育学校教員が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことができるようにする。

授業改善に向けた講座

「学びの主体者」
子どもを見取る

第1回講座 令和5年6月12日(月)15:15~ Zoom会議
概要説明・課題提起 松岡 指導主事
実践発表 京丹波町立蒲生野中学校 六島 亜由実 先生

第2回講座 本講座
公開授業参観・事後研修会・実践交流等

今回

第3回講座 令和6年1月29日(月)15:15~ Zoom 会議
校種、教科に分かれ授業研究・実践交流 等

授業改善に向けて



何から始める?

- 「求められる力」について整理
- 現状を知る 子どもたちの見取り 自分の実践を振り返る
- 分析から改善に向けて実践

質の高い授業づくり

・既習の知識は何か? ・子どもの様子は?
・単元のゴールの姿は? ・身に付けさせたい力は?

学びの本質を捉える

課題設定

- ・魅力的な導入 投げかけ
- ・単元の見通し 何を学習するか

心が動く

児童生徒が主体的に学習に臨む

- ・その力を育む活動
- ・ねらいを達成できる展開
- ・問題解決的な学習
- ・他者と関わり合いながら「答えを導き出す」「考えを深める」設定
- ・思考を活性化させている

「教える」

↓
「自ら学び取る」

活用する場面の設定

- ・学んだことが生かされている
- ・学んだ姿が実感できる
- ・達成感がある

質の高い授業づくり

単元の地図

単元の地図



- ・単元のゴールを明確にし(地図を共有し)
- ・めあての達成に向けて(中継地を経由しながら)
- ・見方・考え方を働かせて(見通しを持って)
- ・主体的・対話的な活動で、めあてを達成していく

「単元の地図」の共有

授業改善に向けて

子どもの見取りから

↓
必要な手立ては何か

一人でもできる、やろうとする
子どもを育てる

必要以上に手立てをしない
子ども自身が考える余白を

授業改善に向けて

- 「求められる力」について整理
- 現状を知る 子どもたちの現状分析 今の自分の授業
- 子どもの変容 やってみよう!
- 分析から改善に向けて実践

このサイクルが大事!

1

授業実践講座 小中学校理科

授業実践:京丹波町立和知中学校 今井 俊彦 教諭

① 授業実践の紹介 第1学年 「物質のすがたとその変化」

- 理科の見方・考え方を働かせ、学びの質を高める学習活動の実現
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をめざした授業づくり

具体から抽象へどのように思考を変化させていくのか、小学校・中学校のコアメンバーで協議を重ねてきました。

前時の演示実験。エタノールを温めると「膨らんだ!」「質量は…変わらない!」



本時(3/8)
前時の実験の想起
⇒粒子モデルを用いて説明

粒子モデルの概念獲得をどうするか。



まずは一人で、タブレットを用いてモデル図に表してみる。



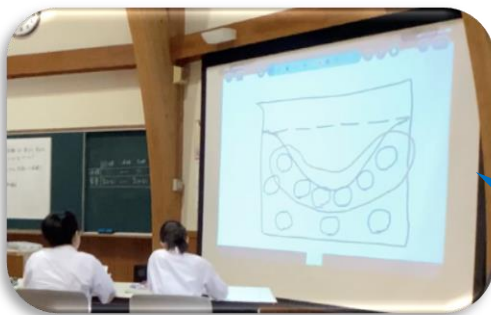
- ・中1の生徒は小学校でこんな学習してきた。
- ・小学校で学習してきたことが中学校の学びにつながる。
- ・小学校の学びも大事!



仲間と交流。たくさんの人と対話する中で考えが広がったり整理したりする。

【単元計画】(全8時間)

- 1 導入 単元課題をつかむ
物質のすがたの変化
- 2 物質の状態と体積・質量の変化
- 3 **状態変化と粒子モデル(本時)**
- 4 } 状態変化と温度
- 5 } (計画・実験・考察)
- 6 } 混合物の分け方
- 7 } (計画・実験・考察)
- 8 身のまわりの現象(状態変化)の原理を説明



Padlet を使って自分の考えを提出。リアルタイムで仲間の考えを交流。

粒の数は変わらないで粒が小さくなる。



② 研究協議

公開授業に基づく授業研究会では、「抽象概念の獲得について」や「単元全体の課題設定について」を話し合いました。「具体を用いながらモデル化する」「議論のポイントを絞る」「小学校中学年から予想や考察など思考することを積み上げる」「評価規準の提示は児童生徒の見通し、主体的な学習につながる」など、小・中それぞれの授業づくりで大切にしたいことを共有しました。

また、写真を用いて実践交流をしました。板書記録、児童生徒が撮影した写真、自作の教材の写真は授業の様子がよくわかりお互い参考になりました。具体的なものを使って事象を説明することは小学校でも中学校でも大切にされていることがわかりました。



写真を用いての実践交流

2

授業実践講座 中学校外国語

授業実践: 亀岡市立東輝中学校 山村 京子 教諭

① 授業実践の紹介 第1学年 Program6 「The Way to School」

- 教師のねらいを明確にした単元構想
- 生徒が「やってみたい」と思える魅力ある単元ゴールを設定し、ゴールにつながる授業づくり

単元1時間目 単元ゴールの提示

「自分の好きな人物(推し)についてスピーチをしよう」



「やってみたい!」
単元の始まりは魅力的なゴールの提示から



“I like~.”まずは先生がスピーチ。
「推し」を語る先生は終始笑顔。

配布されたルーブリック
をタブレット端末で確認。

最後にはこんなスピーチができるようになる。ゴールを生徒と共有
→学習の見通しが持てる

「『推し』のことなら
1時間でも話せるで!」
(生徒のつぶやき)

【単元計画】(全10時間)

- 1 単元のゴールを知る
- 2 Scenes1
- 3 Scenes2(本時) 文法事項の導入・練習
- 4~5 Think1
- 6~7 Think2
- 8 スピーチ作り
- 9 スピーチ発表練習
- 10 スピーチ発表

本時(3/10) 文法導入・練習
登場人物になり切って、なぜそう思うのか、尋ねたり、答えたりしよう。



既習を含めた表現を使用した会話練習を毎回取り入れることで、アウトプットの機会を確保。



学んだ表現を使って、何度もアウトプットすることで、表現の定着を図る。

② 研究協議



公開授業についての事後研修会では、KPTシートを用い、良かったこと、課題点等について、意見交流を行いました。良かったこととしては、「ルーブリックを活用し、生徒自身がその時間で頑張りたいことを意識して活動ができていた」「生徒が話す時間が大半を占めていた」「文のルールを使うことで気付かせる場面があった」等の意見がありました。課題としては、「学習内容の定着をどう確認するか」「良い場面をシェアする場面があっても良かった」等がありました。

実践交流においては、参加者同士で持参した資料を用いながら、言語活動を中心に据えた授業、子どもの見取り、評価について等を中心に、日々の授業において工夫されていることについて活発に意見交流されていました。

3

授業実践講座 小学校国語

授業実践:南丹市立園部小学校 齋藤 真穂 教諭

① 授業実践の紹介 第5学年 読み手が納得する意見文を書こう「あなたは、どう考える」

- 学びの必然性をうむ授業づくり
- 個の見取りと単元デザインの往還

コアメンバーで協議を重ねてきました。

子どもが自分の意見を持ち、意見文を書きたいと思うために日記を活用するのはどうでしょう。

この単元で身に付けたい力は、これですね。

その子が好きなことは何ですか？その子のための手立てとして、こう展開するのはどうでしょう。

自分の成長を実感できるといいですね。

【単元計画】(全8時間)

- 1 意見文に関心をもち、学習課題(単元ゴール)を設定する。
- 2 意見文を書く見通しをもち、誰に何を伝えたいのか考える。
自分のめあて(何をがんばるのか)
書く目的 相手意識
～情報収集期間～
- 3 収集した情報を整理する。
- 4 **意見文の構成を検討する。(本時)**
- 5 「中」の部分の文章にする。
- 6 「中」の部分の推敲をする。
- 7 考えた構成を基に意見文を書く。
- 8 意見文を読み合い、感想を伝え合う。

文章のよさに気付く 達成感

1/8

共感!

〇〇さんは、こんなことを考えているのかな。

この意見文にはどんな工夫があるのかな。反論がなぜ書いてあるのだろう。

本時(4/8)

主張を支える理由や根拠に説得力があるか見直す
→ペアやグループで反論を想定する(他者の視点を取り入れる)
→反論に対する考えをまとめる(より説得力を高める)



説得力があるかどうか考えて、バタフライチャートを完成させよう。

主張はこれで、この理由と根拠にしたけど、どうかな。

こんな考えもあるんじゃない?

たしかに。

誰に伝えたいの?

その考えには、こう返したら納得してもらえかも。

相手意識をもつ

いいアドバイスがあったよ。

他者の視点から意見文を見直す

個(その子)を見取る

伝えたい相手が納得できる意見文になりそうかな。

書き手の伝えたいことに寄り添いアドバイスする姿を評価

振り返りの時間を確保(その理由と根拠、反論を選んだわけを振り返ることで、学び方を意識させる。)

② 研究協議

公開授業に基づく授業研究会では、「個の見取りを活かした単元づくり」「学びの必然性をうむしかけ」「個別最適な学び方」「シンキングツールの活用」等、児童が主体的になる授業づくりについて、活発な意見交流がなされました。

また、実践交流では、児童の成果物や掲示物、写真等を見せ合い交流しました。また、児童と一緒に単元ゴールや単元計画を立てる実践の紹介があり、学ぶことの意義や楽しさを実感できる単元をデザインすることや指導事項の系統性をさらに意識して学びの本質を捉えることが、生きて働く力につながることを改めて確認することができました。

